インターネットでの社会実証（第二期）
結果報告

2023年5月23日

NHK

目次

NHK

・社会実証（第二期）について
　　検証と結果のサマリー

・検証の概要

・個別機能の評価
　　①災害マップ
　　②一望・連続再生

・全体評価
　　（参考）“テレビ層”からの評価

社会実証（第二期）について
検証と結果のサマリー

社会実証（第二期）について

NHK

第一期

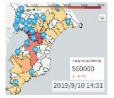
社会実証の第一期では、これまで主に放送で果たしてきた役割・機能について、インターネットを通じてどのように果たせるのかを検証。
情報空間の課題解決や、望ましい情報空間の実現につながるものとして、一定の理解と支持が確認された。
（以下の7つのサービスを通じて実施）

① ●主要ニュースについて、NHKの豊富なアーカイブを活用し類似ニュースの“まとめ”とは違う多角的視点を提示 — NEWS WEB・NHK+

② ●話題となっているコンテンツについて、通常のレコメンドの範囲とは違う幅やジャンルの多角的視点を提示

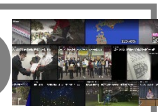
③ ●最新ニュースについて、SNSでの盛り上がりを分析し、分断やスパムを検知し、信頼性の課題等をアラート — フェイクアラート

④ ●災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、危険予測・判断材料を提供 — 災害マップ



⑤ ●あるニュースのテーマについて、各都道府県での差異を地図などで同時に提示し、日本の多様性を提示 — 地域ニュース

⑥ ●多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能 — 一望・連続再生



⑦ ●動画や画像アーカイブを位置情報と連携させて活用することで、日本各地の風土や多様性を提示する機能 — 地域文化

第二期

“安全・安心を支える”“あまねく伝える”を強化する修正経営計画を決定したことも踏まえ、社会実証（第一期）で実施した④と⑥について、さらに具体的にNHKに期待される役割・機能を検証。

④ ●災害報道の情報を蓄積して、地図上に可視化し、危険予測・判断材料を提供 — ①災害マップ

⑥ ●多くの動画ニュースが一目でわかると共に、重要度や新着順などに応じて適切に自動編集、連続再生する機能 — ②一望・連続再生

＜実施概要＞
【日程】 2023年2月10日～2月24日
【実証対象】
・テレビを持っていない方々や日常的に利用されていない方々
【実施方法】
・各サービスを体験・視聴いただいた後にアンケート調査を実施

結果の概要

NHK

①災害マップ

課題と狙い

- 防災・減災の具体的な課題として、放送で呼びかけても、一般的過ぎて、**「避難のスイッチ」がなかなか入らない**、ということが指摘されている。
- そこで、「過去に起きた災害」について追体験することで、将来の「もしも」の時に避難の“行動変容”を促せるか検証した。
- 検証では、2020年7月に熊本県の球磨川流域を中心に発生した豪雨災害を例に、被害状況の映像などを地図上で時系列に可視化した。

地図上に可視化した機能の一例
（被害状況マップ）

NHK撮影映像や視聴者から投稿された映像を時系列に地図上で可視化、実際の災害状況を確認することができる。

検証結果

- 住んでいる地域で「過去に起きた災害」について追体験する災害マップを利用するとしたら、将来の「もしも」の時に、**避難の気持ちが強まる**
（**行動変容が生じる**：**91.6%（事前調査での避難率は13.2%）**）との高い評価を受けた。
88.5%の人が利用意向を示した。
- 避難の“行動変容”を促せることが確認できた。

結果の概要

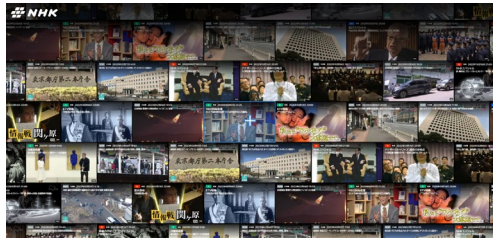
NHK

②一望・連続再生

課題と狙い

- 第一期では、インターネット特有の“分断”等の課題について、規範的な役割・機能については評価されたが、実際には興味が向かわず使ってもらえない、一方でアテンションエコノミーに則ってしまっては意味がない。
- 第二期では、ユーザーの利用場面を想定した機能を示して、**放送の“総合編成”と同様の効用**をもたらすように**「NHKが選んだ主要ニュースと多様なジャンルの番組」を提示**、**「自分が設定・選択したニュース・番組」の提示**といずれも利用できるようにして、どのように受容されるかを検証した。

機能の一例（総覧視聴）



総覧視聴A

NHKが選んだ
「主要ニュース」
「多様なジャンルの番組」
を提示

OR

総覧視聴B

自分が設定した
「地域ニュース」
「興味のあるジャンルの番組」
を提示

検証結果

- 日頃の習慣で、自分の興味・関心のあるコンテンツだけで満足する人などでも、そうでない人でも、「NHKが選んだ主要ニュースと多様なジャンルの番組」の提示に、
思いがけないコンテンツなどに触れるなど広がりを実感した：**（50.0%～69.7%）**との評価、
利用意向：**（73.0%～85.5%）**でも一定の評価がみられた。
- アテンションエコノミーに則らないで、興味が向かい使ってもらえる意向が確認でき、**NHKならではのバランスの確立をできる見通し**が確認できた。

第二期　**放送と同様の効用を企図したサービスで、同様の効用をもたらすことが確認されたと言えるのではないか**

検証の概要

検証の概要

NHK

		検証方法	対象者*1	期間
①	災害マップ 熊本県の球磨川流域を中心に発生した豪雨災害の被害状況の映像などを地図上で時系列に可視化して提示。	**イメージサイトを提示し実証** （一定時間使っていただき、その後にアンケートを実施）	321人	2/17-24
②	一望・連続再生 総覧視聴や番組・ニュースリスト、検索などの機能で、多角的視点に触れるようにNHKが選んだ主要ニュースや番組などを混ぜて提示。	**サイトを作成し、実際のサービスに近い感覚で実証** （数日使っていただき、その後にアンケートを実施）	1,123人	2/10-17

*1　対象者の人数については、実証実験に参加し、検証調査に回答した有効対象者数を記載。

＜対象者の選定＞
それぞれの対象数に対し、外部調査会社により「テレビを全く、あるいはほとんど見ない方々」*2について、通常のネットアンケート同様の幅広い募集により、日本全体の人口・年齢比率に近くなるように選定した上で、ネットアンケートを行える環境を整えて実施。

*2 「テレビを全く、あるいはほとんど見ない方々」については、第一期と同様に、外部調査会社の調査の結果、「視聴時間が1日当たり1時間程度・1時間未満である」方々とした。

①災害マップ

NHK

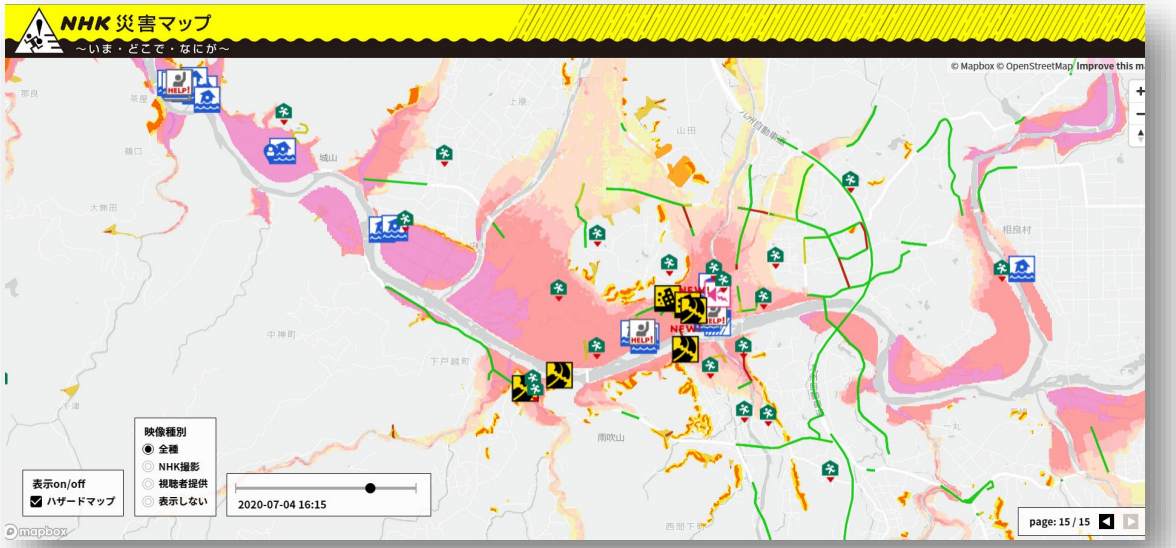
放送と同じ価値・異なる態様：災害マップ～ネット版“防災・減災報道”

社会実証の第一期では、これまで放送で果たしてきた防災・減災を呼びかける役割・機能について、インターネットならではの表現で、さらに一定の役割を果たせる可能性があることを確認

➡放送で防災・減災を呼びかけても実際の避難につながらない場合が少なくなく、また、避難が遅れ多くの人が被災してしまっているという、喫緊の課題にフォーカスして、インターネットならではの方法で役割・機能を果たせるかを企図

具体内容

- 被害の情報や映像などNHKの災害報道内容の蓄積を地図上に可視化
- 被害の広がりを時間軸に沿って見られるようにすることで、被害の実態や影響の拡大をより現実的なものとして体感できる材料を提供し、防災・減災に役立ててもらう



②一望・連続再生

NHK

放送と同じ価値・異なる態様：一望・連続再生～ネット版“総合編成”

社会実証の第一期では、インターネット特有の“分断”等の課題について、放送の効用（基本的な情報の共有（同報性）、多元性）で対応し得ることを確認
➡さらにユーザーの利用傾向に合わせた設計を行い、“総合編成”と同様の効用をもたらすことを企図

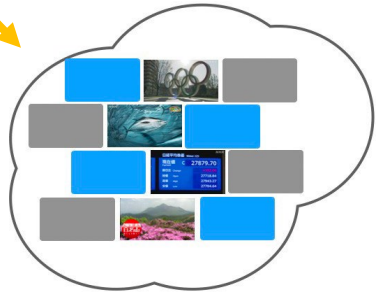
具体内容

放送したニュースや番組を視聴・検索・閲覧など

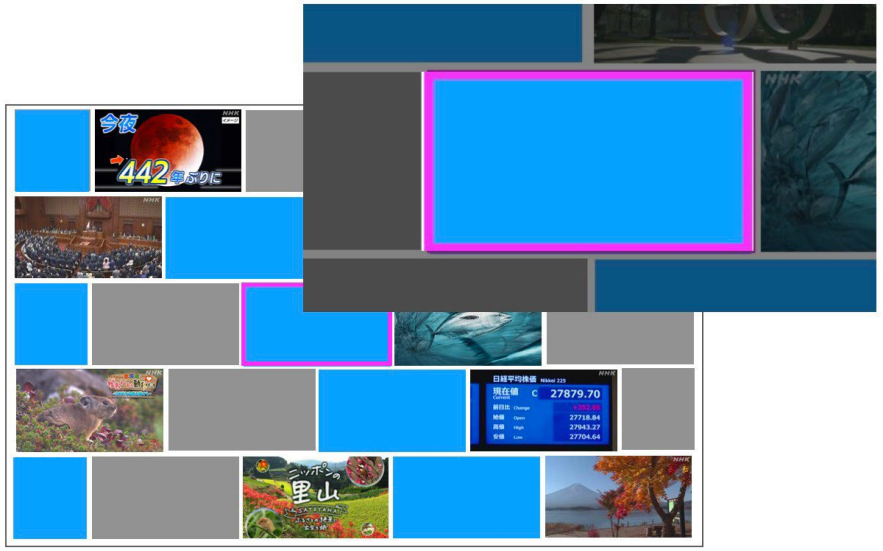
視聴・閲覧しているニュースや番組を抽出

多角的視点を加味してコンテンツを動的に編成

- ✓ 説明性があるプレイリスト
- ✓ 最新のニュース
- ✓ ジャンルや地域軸のプレイリスト



とりあえずつけておくだけで、知りたい話題だけでなく、自動的に最新・重要ニュース、多様なジャンルの番組なども併せて連続的に視聴できる



個別機能の評価

①災害マップ

②一望・連続再生

サービス①　災害マップ　機能イメージ

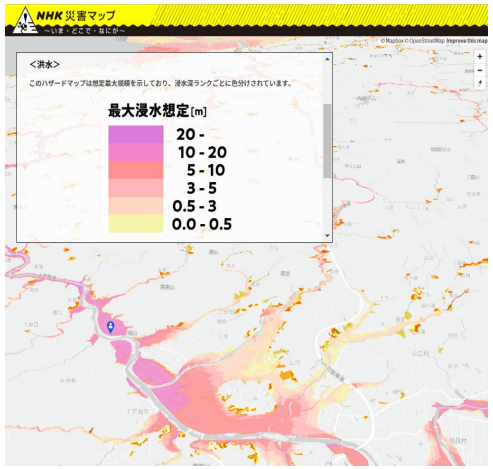
NHK

問題意識に対し、3つの機能を提示。

課題と狙い

- 防災・減災の具体的な課題として、放送で呼びかけても、一般的過ぎて、「避難のスイッチ」がなかなか入らない、ということが指摘されている。
- そこで、第一期のサービスの具体的な応用として、「過去に起きた災害」について追体験することで、将来の「もしも」の時に“行動変容”を促せるのか、検証した。
- 検証では、2020年7月に熊本県の球磨川流域を中心に発生した豪雨災害の被害状況のNHK撮影映像などを地図上で時系列に可視化した。

①被害想定を見る機能（ハザードマップ）

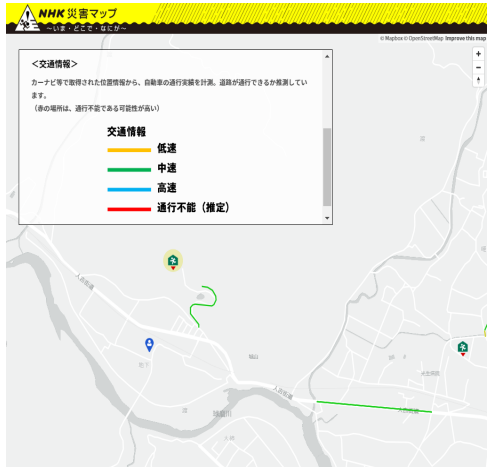


お住まいの地域のリスクを、地方自治体などが公開しているハザードマップと重ねて確認することができる。

②各地域の映像を見る機能（被害状況マップ）

各地域で撮影された映像を見て、実際の災害状況を確認することができる。映像はNHK撮影のもの、もしくは視聴者から投稿されたもの（公開前にNHK側が確認）で、撮影した場所と紐づけて表示される。

③避難所の位置、道路状況を確認する機能



アイコンで周辺の避難所の位置と、各道路が通行できそうかどうか、通行実績を表示し、どのように避難すべきかの判断材料の一環として活用できる。

事前調査：避難経験の有無

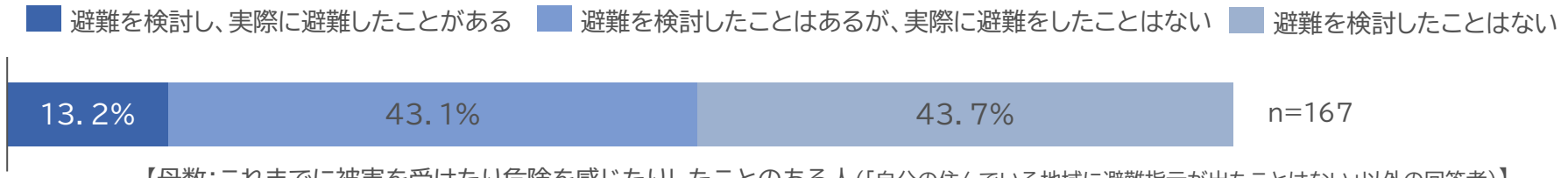
災害マップ

NHK

- これまで被害を受けたり危険を感じたりしたことのある人のうち、避難指示が出た際に「避難を検討し、実際に避難したことがある」と回答した人は、**13.2%**。
- 避難しなかった理由は、「緊急性・必要性を感じなかった」「大した被害はでないだろうと考えた」の回答が多い。

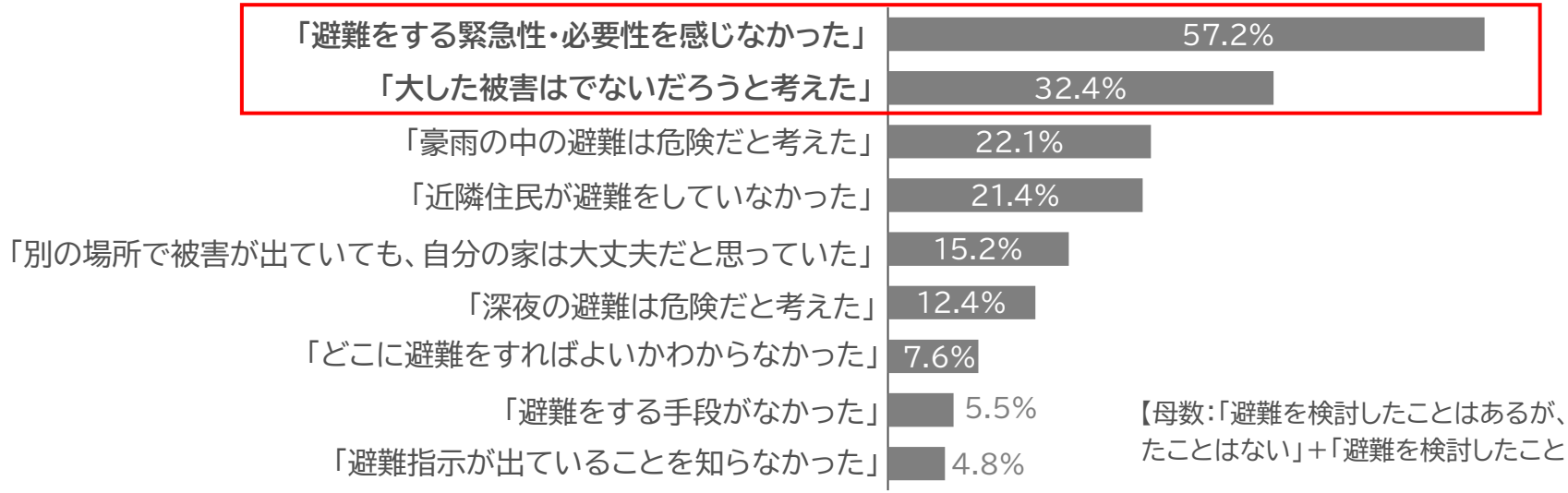
避難経験の有無

避難指示が出た際の避難経験の有無



【母数：これまでに被害を受けたり危険を感じたりしたことのある人（「自分の住んでいる地域に避難指示が出たことはない」以外の回答者）】

避難しなかった理由（複数回答）



n=145

【母数：「避難を検討したことはあるが、実際に避難をしたことはない」＋「避難を検討したことはない」回答者】

Q. あなたがこれまでに被害を受けたり、身近に危険を感じたりしたことのある災害はどれですか。あてはまるものをすべてお知らせください。
Q. あなたは、これまで台風や大雨・地震などの自然災害により、避難指示が出た際に避難場所などに避難したことはありますか。最もあてはまるものをお知らせください。
Q. 前問で「避難を検討したことはあるが、実際に避難をしたことはない」「避難を検討したことはない」と回答した人に伺います。あなたが避難をしなかった理由について、あてはまるものをすべてお知らせください。

出所）社会実証調査（2023年2月実施）

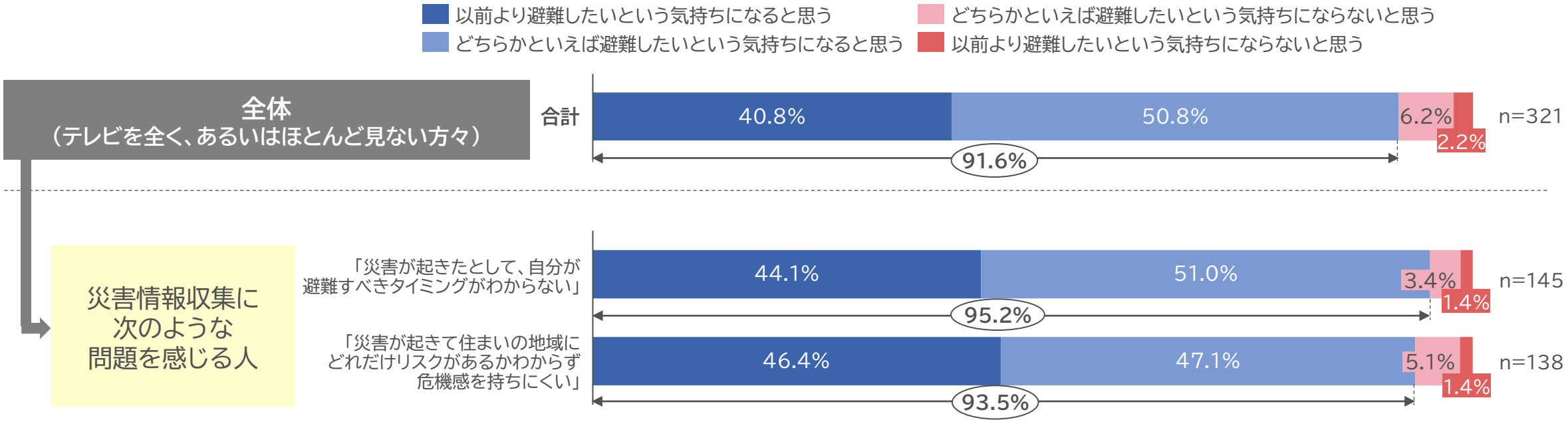
評価：避難に対する気持ちの変化

NHK

■ **91.6%**の人が、住んでいる地域で「過去に起きた災害」について追体験する災害マップのサービスを利用したら、今後避難指示が出たときに、避難の気持ちが強まる*と回答。災害時に避難すべきタイミングがわからないと回答した人、災害時に危機感を持ちにくいと回答した人のいずれでも、**90%以上**が避難の気持ちが強まると回答。

*「避難したいという気持ちになる」+「どちらかといえば避難したいという気持ちになる」

避難に対する気持ちの変化



Q.あなたは、今回ご利用いただいた「災害マップ」のように、今後、お住まいの地域についての「過去に起きた災害の情報」を利用することで、実際に災害が起きテレビなどを通じて避難指示が出た際に、これまでよりも避難したいという気持ちになると思いますか。
Q. 災害情報収集にあたって感じる問題：あなたは、台風や大雨・地震などの災害に関する情報を集めるにあたって、以下のような問題を感じたことはありますか。あてはまるものをすべてお知らせください。

出所）社会実証調査（2023年2月実施）

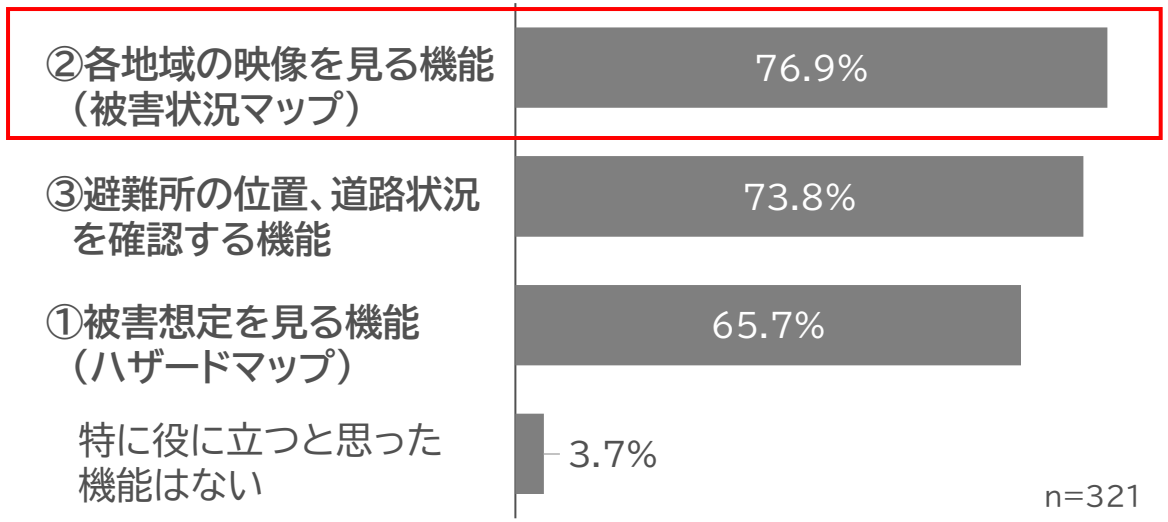
評価：各機能の評価とサービスの利用意向

災害マップ

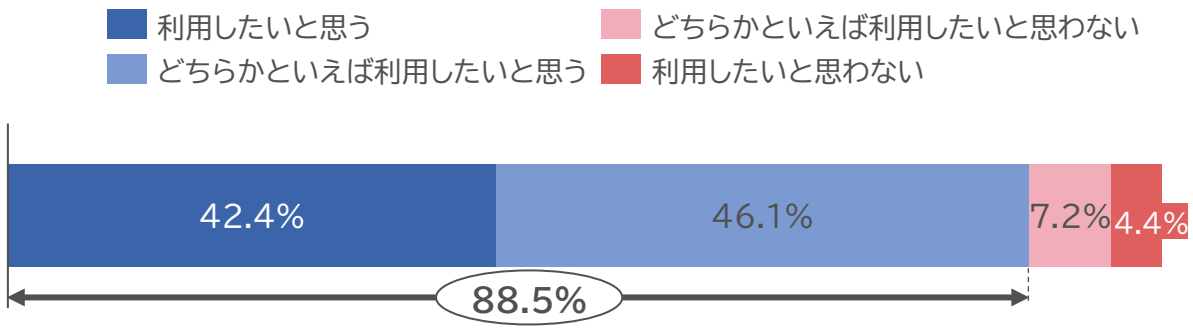
NHK

- 各機能について、どの機能も**7割前後**の人が評価。最も評価が高かったのは、NHKが撮影した映像や視聴者から投稿されNHKが確認した映像などで災害状況を確認することができる「被害状況マップ」の機能で、全体の**76.9%**が、役に立つと回答。
- 今後サービスが一般に提供されるようになった場合について、**88.5%**が利用意向を示した。

評価する機能（複数回答）



利用意向



確認したコメント

- 「NHKの豊富な映像資料が危険性を訴える際に視覚的にとても役に立つと思うから」（30代女性）
- 「全ての地域の過去の災害に関する情報のアーカイブは、全ての都道府県に放送局があるNHKでなければ不可能ではないか」（40代女性）
- 「NHKは過去の災害に対する情報量が多い。特に情報を集める情報網と実際に残っている映像の量は他の機関とはレベルが違うと考える。持っている情報を今後の未来のために有益に使うことは社会的にも非常に意義がある」（30代男性）

Q. 今回ご利用いただいた「災害マップ」について、特にどの機能が役に立つと思いましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。
Q. 先ほどの「災害マップ」でご利用いただいたサービスが、今後一般に提供されるようになれば、あなたは利用したいと思いますか。
出所）社会実証調査（2023年2月実施）

サービス② 一望・連続再生 機能イメージ

一望・連続再生

NHK

放送が担ってきた多様性を提供する3つの機能を提示。

課題と狙い

- 情報やコンテンツの取得の場面を具体的に想定し、総覧視聴、番組・ニュースリスト、検索の3つの機能を提示。
- 総覧視聴では、「NHKが選んだ主要ニュースと多様なジャンルの番組」と、「自分が設定した地域ニュースと興味ジャンルの番組」の、それぞれの総覧を提示。
- リストと検索では、「自分が選択・検索したニュース・番組を提示」か、これにあわせてリストの分野・ジャンルや検索のキーワードに直接は関連しない「NHKが選んだ主要ニュースや番組なども混ぜて提示」か、いずれも利用できるようにした。
- 日頃の情報取得の習慣の違いによって、それぞれがどのように受容されるかを検証した。

機能

総覧視聴

番組リスト・ニュースリスト

検索

いずれの提示も利用できる

総覧視聴A

NHKが選んだ
「主要ニュース」と
「多様なジャンルの番組」
を提示

OR

総覧視聴B

自分が設定した
「地域ニュース」と
「興味ジャンルの番組」
を提示

直接関連しない ニュースや番組を“混ぜる”

リストや検索の内容に
直接は関連しない
NHKが選んだ
「主要ニュースや
多様なジャンルの番組」
なども混ぜてあわせて提示

OR

直接関連しない ニュースや番組を“混ぜない”

自分が選択した
分野・ジャンルのリストや
自分が検索したキーワードの
「ニュースや番組」を提示

※いずれの内容も一望し、ニュースや番組の冒頭が30秒ずつ連続再生されて視聴できる。

調査：サービス別と情報取得の習慣別による分析

一望・連続再生

NHK

- 番組・ニュースリストと検索では、リストや検索の内容に“混ぜる”場合、混ぜるコンテンツをいくつか変えて提示。
- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣で、自分が興味・関心のあるコンテンツだけで満足するか、そうではないかなど、対象者を6つに分けて、受容のされ方を検証。

検証の軸：ニュース・コンテンツの提示（パターン）

総覧視聴

◆2つのパターンを提供。

総覧視聴A	NHKが選んだ主要ニュース	NHKが選んだ番組
総覧視聴B	自分が設定した地域ニュース	自分が設定した興味ジャンルの番組

番組リスト・ニュースリスト ---------- 検索

◆4つのパターンで混ぜるコンテンツの内容を変えて検証。

	※“混ぜる”選択をした場合			
A	NHKが選んだ主要ニュース			
B	NHKが選んだ主要ニュース	NHKが選んだ番組		
C	NHKが選んだ主要ニュース	NHKが選んだ番組	自分が設定した地域ニュース	
D	NHKが選んだ主要ニュース	NHKが選んだ番組	自分が設定した地域ニュース	自分が設定した興味ジャンルの番組

検証の軸：情報取得の習慣（分類）

		情報取得の習慣	Q.普段、インターネットで情報・コンテンツを閲覧する際の行動や考え方のパターンとして、以下のどちらにあてはまりますか。
情報取得の能動性	受	情報取得 受動的	検索した結果、知りたかったことがわかればそれで満足する
	能	情報取得 能動的	検索した結果を見て、さらに興味の深掘りのための検索をする
レコメンド受容性	高	受容性・高 レコメンド歓迎	動画やニュースなどがレコメンドされることは、自分の興味に合ったものを効率的に見られるのでありがたい
	低	受容性・低 レコメンドは余計	動画やニュースなどがレコメンドされることは余計なおせっかいだと感じる
取得したい情報の範囲	狭	範囲・狭い 関心ごとのみの情報をよしとする	自分の興味・関心のあるジャンルや好きなコンテンツだけ見ていたい
	広	範囲・広い 関心ごとのみの情報を警戒	興味はなくても、世の中の動きとして知っておいた方が良い情報やコンテンツには触れておきたい

※“混ぜる”選択：多角的な視点が得られる「スイッチ」を設定。通常はオンで、リストや検索の内容には直接は関連しない主要ニュースや番組も“混ぜて”あわせて提示される。ユーザーが自分で「オフ」にして、“混ぜない”ように設定もできる。

評価：総覧視聴のコンテンツの広がり実感

一望・連続再生
総覧視聴

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類いずれでも、「思いがけないコンテンツなどに触れた」と広がりを感じたと回答した人は総覧視聴Aが56.0%から69.7%と、総覧視聴Bの50.5%から63.0%よりも多く、NHKが選んだ主要ニュースと番組の提示が、広がり実感が高いことがわかった。
- 総覧視聴Aでは、6つの分類のうち、レコメンドの受容性が高い人が最も多く69.7%、レコメンドの受容性が低い人が最も少なく56.0%だった。

コンテンツの広がり実感：「実感した」＋「まあ実感した」（%）

		総覧視聴A（NHKが選んだ主要ニュースと番組）	総覧視聴B（自分が設定した地域ニュースと興味ジャンルの番組）	n=
非テレビ層全体		64.6%	58.4%	1,123
情報取得の能動性	受 検索した結果、知りたかったことがわかればそれで満足する	61.7%	59.5%	420
	能 検索した結果を見て、さらに興味の深掘りのための検索をする	66.4%	57.8%	703
レコメンド受容性	高 動画やニュースなどがレコメンドされることは自分の興味に合ったものを効率的に見られるのでありがたい	69.7%	63.0%	709
	低 動画やニュースなどがレコメンドされることは余計なおせっかいだと感じる	56.0%	50.5%	414
取得したい情報の範囲	狭 自分の興味・関心のあるジャンルや好きなコンテンツだけ見ていたい	63.2%	58.0%	541
	広 興味はなくても、世の中の動きとして知っておいた方が良い情報やコンテンツには触れておきたい	66.0%	58.8%	582

…65%以上　…60%以上　…55%以上　…50%以上

Q.今回のNHK社会実証サイトで提供した「総覧視聴・連続再生」機能では、YouTubeのように関連する動画が次々に表示されるのではなく、多角的な視点のきっかけとして色々な分野のコンテンツが表示されました。この機能を利用して、思いがけないコンテンツや普段はあまり目にしないようなコンテンツに触れたことを実感しましたか。

出所）社会実証調査（2023年2月実施）

評価：利用意向

一望・連続再生
総覧視聴

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類いずれでも、総覧視聴のAとBで、「状況に応じてどちらも利用したい」と回答した人が、49.3%から52.9%と最も多かった。
- 「状況に応じてどちらも利用したい」「総覧視聴Aを利用したい」と回答した人をあわせると73.0%から82.8%となり、「NHKが選んだ主要ニュースと番組」の提示に、一定の利用意向があることがわかった。

総覧視聴A・Bの利用意向

総覧視聴A（NHKが選んだ主要ニュースと番組）
総覧視聴B（自分が設定した地域ニュースと興味ジャンルの番組）

状況に応じてどちらも利用したい　総覧視聴Aの方を利用したい　総覧視聴Bの方を利用したい

			状況に応じてどちらも利用したい	総覧視聴Aの方を利用したい	総覧視聴Bの方を利用したい	「どちらも」とA合計	「どちらも」とB合計	
非テレビ層全体			51.3%	26.8%	21.9%	78.1%	73.2%	n=1,123
情報取得の能動性	受	検索した結果、知りたかったことがわかればそれで満足する	49.3%	28.8%	21.9%	78.1%	71.2%	n=420
	能	検索した結果を見て、さらに興味の深掘りのための検索をする	52.5%	25.6%	21.9%	78.1%	74.4%	n=703
レコメンド受容性	高	動画やニュースなどがレコメンドされることは自分の興味に合ったものを効率的に見られるのでありがたい	51.2%	27.8%	21.0%	79.0%	72.2%	n=709
	低	動画やニュースなどがレコメンドされることは余計なおせっかいだと感じる	51.4%	25.1%	23.4%	76.6%	74.9%	n=414
取得したい情報の範囲	狭	自分の興味・関心のあるジャンルや好きなコンテンツだけ見ていたい	49.5%	23.5%	27.0%	73.0%	76.5%	n=541
	広	興味はなくても、世の中の動きとして知っておいた方が良い情報やコンテンツには触れておきたい	52.9%	29.9%	17.2%	82.8%	70.1%	n=582

Q.今回のNHK社会実証サイトで提供した「総覧視聴・連続再生」機能について、あなたは、「総覧視聴A」と「総覧視聴B」のどちらを利用したいと思いましたか。
出所）社会実証調査（2023年2月実施）

評価:リストのコンテンツの広がり実感

一望・連続再生
番組・ニュースリスト

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6分類のうち4つの分類で、パターンBが、59.2%から66.9%と「思いがけないコンテンツなどに触れた」と広がりを感じたと回答した人が最も多かった。
- レコメンドの受容性が低い分類の人の回答では、広がり実感は、パターンAが最も多く52.1%、次いでパターンBが52.0%、取得したい情報の範囲が広い分類の人の回答では、広がり実感は、パターンAが最も多く62.6%、次いでパターンDの62.1%、パターンBの58.7%だった。

リストの分野やジャンルとは
直接関連しないコンテンツの混ぜ方

コンテンツの広がり実感:「実感した」+「まあ実感した」(%)

		A NHKが選んだ主要ニュース	B NHKが選んだ主要ニュース＋番組	C NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース	D NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース＋興味ジャンルの番組	ABCD合計 n=
非テレビ層全体		58.0%	61.4%	53.0%	58.0%	1,123
情報取得の能動性	受 検索した結果、知りたかったことがわかればそれで満足する	59.4%	65.1%	49.1%	57.6%	420
情報取得の能動性	能 検索した結果を見て、さらに興味の深掘りのための検索をする	57.2%	59.2%	55.8%	58.2%	703
レコメンド受容性	高 動画やニュースなどがレコメンドされることは自分の興味に合ったものを効率的に見られるのでありがたい	62.3%	66.9%	57.4%	62.4%	709
レコメンド受容性	低 動画やニュースなどがレコメンドされることは余計なおせっかいだと感じる	52.1%	52.0%	44.9%	49.5%	414
取得したい情報の範囲	狭 自分の興味・関心のあるジャンルや好きなコンテンツだけ見ていたい	52.7%	64.1%	53.3%	53.4%	541
取得したい情報の範囲	広 興味はなくても、世の中の動きとして知っておいた方が良い情報やコンテンツには触れておきたい	62.6%	58.7%	52.8%	62.1%	582

…65%以上　…60%以上　…55%以上　…50%以上

Q.この機能を利用して、思いがけないコンテンツや普段はあまり目にしないようなコンテンツに触れたことを実感しましたか。
出所)社会実証調査(2023年2月実施)

評価：検索のコンテンツの広がり実感

一望・連続再生
検索

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6分類のうち5つの分類で、パターンBが50.0%から59. 0%と「思いがけないコンテンツなどに触れた」と広がりを感じたと回答した人が最も多かった。
- 唯一、取得したい取得の範囲が広い分類の人の回答では、広がり実感は、パターンAが最も多く60.0%、パターンBが次いで多く55.1%だった。

検索結果に提示した、
検索キーワードとは直接関連しないコンテンツの混ぜ方

コンテンツの広がり実感：「実感した」＋「まあ実感した」（%）

		A NHKが選んだ主要ニュース	B NHKが選んだ主要ニュース＋番組	C NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース	D NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース＋興味ジャンルの番組	ABCD合計 n=
非テレビ層全体		53.5%	55.7%	47.0%	49.6%	1,123
情報取得の能動性	受 検索した結果、知りたかったことがわかればそれで満足する	50.0%	55.7%	45.7%	44.6%	420
	能 検索した結果を見て、さらに興味の深掘りのための検索をする	55.6%	55.7%	47.9%	52.2%	703
レコメンド受容性	高 動画やニュースなどがレコメンドされることは自分の興味に合ったものを効率的に見られるのでありがたい	58.1%	59.0%	48.1%	53.0%	709
	低 動画やニュースなどがレコメンドされることは余計なおせっかいだと感じる	47.1%	50.0%	44.9%	43.2%	414
取得したい情報の範囲	狭 自分の興味・関心のあるジャンルや好きなコンテンツだけ見ていたい	45.8%	56.3%	48.2%	49.6%	541
	広 興味はなくても、世の中の動きとして知っておいた方が良い情報やコンテンツには触れておきたい	60.0%	55.1%	45.8%	49.7%	582

…65%以上　…60%以上　…55%以上　…50%以上

Q.この機能を利用して、思いがけないコンテンツや普段はあまり目にしないようなコンテンツに触れたことを実感しましたか。
出所）社会実証調査（2023年2月実施）

評価：利用意向　コンテンツを混ぜるか

一望・連続再生
番組・ニュースリスト

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類のいずれも、“混ぜる”と“混ぜない”を「状況に応じてどちらも利用したい」と回答した人が、パターンA・B・C・Dすべてで、53.7%から71.4% と最も多かった。
- 「状況に応じてどちらも利用したい」「常に混ぜて利用したい」と回答した人をあわせると、6つの分類それぞれで、パターンA・B・C・Dで、69.4%から91.3%となり、リスト内容とは直接関連しないコンテンツを混ぜる提示に利用意向があることがわかった。
- このうち、パターンBでは、79.4%から84.8%だった。

リストの分野やジャンルとは直接関連しないコンテンツの混ぜ方

(%)		A NHKが選んだ主要ニュース				B NHKが選んだ主要ニュース＋番組				C NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース				D NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース＋興味ジャンルの番組				ABCD合計 n=
		どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	
非テレビ層全体		66.4	21.3	12.2	87.8	59.6	23.2	17.1	82.9	65.8	17.8	16.4	83.6	59.8	20.7	19.6	80.4	1,123
情報取得の能動性	受 受動的	58.5	27.4	14.2	85.8	61.3	22.6	16.0	84.0	62.9	19.8	17.2	82.8	63.0	15.2	21.7	78.3	420
	能 能動的	71.1	17.8	11.1	88.9	58.6	23.6	17.8	82.2	67.9	16.4	15.8	84.2	58.2	23.4	18.5	81.5	703
レコメンド受容性	高 受容性高	62.9	26.3	10.8	89.2	59.0	25.8	15.2	84.8	68.9	22.4	8.7	91.3	63.0	21.0	16.0	84.0	709
	低 受容性低	71.4	14.3	14.3	85.7	60.8	18.6	20.6	79.4	60.2	9.2	30.6	69.4	53.7	20.0	26.3	73.7	414
取得したい情報の範囲	狭 範囲狭い	65.6	19.1	15.3	84.7	63.4	19.0	17.6	82.4	66.4	17.5	16.1	83.9	58.0	19.1	22.9	77.1	541
	広 範囲広い	67.1	23.2	9.7	90.3	55.8	27.5	16.7	83.3	65.3	18.1	16.7	83.3	61.4	22.1	16.6	83.4	582

Q.今回のNHK社会実証サイトで提供した「番組リスト」「ニュースリスト」の「より多角的な視点に触れるスイッチ」機能について、あなたは、ON（オン）とOFF（オフ）のどちらを利用したいと思いましたか。
出所）社会実証調査（2023年2月実施）

評価:利用意向　コンテンツを混ぜるか

一望・連続再生
検索

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類のいずれも、“混ぜる”と“混ぜない”を「状況に応じてどちらも利用したい」と回答した人が、パターンA・B・C・Dすべてで、51.6%から68.1% と最も多かった。
- 「状況に応じてどちらも利用したい」「常に混ぜて利用したい」と回答した人をあわせると、6つの分類それぞれで、パターンA・B・C・Dで、64.3%から89.6%となり、検索内容とは直接関連しないコンテンツを混ぜる提示に利用意向があることがわかった。
- このうち、パターンBでは、76.1%から85.5%だった。

検索結果に提示した、検索キーワードとは直接関連しないコンテンツの混ぜ方

(%)

		A NHKが選んだ主要ニュース				B NHKが選んだ主要ニュース＋番組				C NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース				D NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース＋興味ジャンルの番組				ABCD合計 n=
		どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	どちらも	混ぜる	混ぜない	どちらも＋混ぜる合計	
非テレビ層全体		60.8	24.5	14.7	85.3	55.0	25.7	19.3	80.7	61.2	19.6	19.2	80.8	54.3	25.4	20.3	79.7	1,123
情報取得の能動性	受 受動的	56.6	27.4	16.0	84.0	55.7	27.4	17.0	83.0	58.6	23.3	18.1	81.9	59.8	21.7	18.5	81.5	420
	能 能動的	63.3	22.8	13.9	86.1	54.6	24.7	20.7	79.3	63.0	17.0	20.0	80.0	51.6	27.2	21.2	78.8	703
レコメンド受容性	高 受容性高	55.7	29.3	15.0	85.0	51.7	30.3	18.0	82.0	64.5	25.1	10.4	89.6	55.8	28.2	16.0	84.0	709
	低 受容性低	68.1	17.6	14.3	85.7	60.8	17.6	21.6	78.4	55.1	9.2	35.7	64.3	51.6	20.0	28.4	71.6	414
取得したい情報の範囲	狭 範囲狭い	60.3	21.4	18.3	81.7	52.8	23.2	23.9	76.1	62.0	19.7	18.2	81.8	54.2	25.2	20.6	79.4	541
	広 範囲広い	61.3	27.1	11.6	88.4	57.2	28.3	14.5	85.5	60.4	19.4	20.1	79.9	54.5	25.5	20.0	80.0	582

Q.今回のNHK社会実証サイトで提供した「検索」の「より多角的な視点に触れるスイッチ」機能について、あなたは、ON(オン)とOFF(オフ)のどちらを利用したいと思いましたか。
出所)社会実証調査(2023年2月実施)

評価：利用者の視点を広げるための取り組み

一望・連続再生

NHK

- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類のいずれも、NHKが一望・連続再生のように利用者の視点を広げるために積極的に取り組んでいくことについては、評価する*と回答した人が、パターンA・B・C・Dで、63.3%から86.8%と一定の評価だった。
- パターンBでは、6つの分類それぞれで、評価すると回答した人は、72.5%から84.3%で、NHKが選んだ主要ニュースと番組を混ぜる提示でも一定の評価がみられた。

*「評価する」+「どちらかといえば評価する」

評価するか(%)		A NHKが選んだ主要ニュース					B NHKが選んだ主要ニュース＋番組					C NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース					D NHKが選んだ主要ニュース＋番組、自分が設定した地域のニュース＋興味ジャンルの番組					ABCD合計 n=
		評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	評価する計*	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	評価する計*	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	評価する計*	評価する	どちらかといえば評価する	どちらかといえば評価しない	評価しない	評価する計*	
非テレビ層全体		31.8	48.6	11.5	8.0	80.4	26.1	53.9	12.9	7.1	80.0	21.0	55.5	12.5	11.0	76.5	32.2	46.7	13.0	8.0	79.0	1,123
情報取得の能動性	受 受動的	29.2	52.8	9.4	8.5	82.1	19.8	60.4	11.3	8.5	80.2	18.1	56.0	13.8	12.1	74.1	29.3	48.9	12.0	9.8	78.3	420
	能 能動的	33.3	46.1	12.8	7.8	79.4	29.9	50.0	13.8	6.3	79.9	23.0	55.2	11.5	10.3	78.2	33.7	45.7	13.6	7.1	79.3	703
レコメンド受容性	高 受容性高	39.5	47.3	9.0	4.2	86.8	34.8	49.4	9.0	6.7	84.3	24.6	59.0	8.2	8.2	83.6	36.5	49.2	9.4	5.0	85.6	709
	低 受容性低	21.0	50.4	15.1	13.4	71.4	10.8	61.8	19.6	7.8	72.5	14.3	49.0	20.4	16.3	63.3	24.2	42.1	20.0	13.7	66.3	414
取得したい情報の範囲	狭 範囲狭い	26.7	49.6	14.5	9.2	76.3	19.0	59.2	14.1	7.7	78.2	17.5	59.9	11.7	10.9	77.4	32.8	44.3	15.3	7.6	77.1	541
	広 範囲広い	36.1	47.7	9.0	7.1	83.9	33.3	48.6	11.6	6.5	81.9	24.3	51.4	13.2	11.1	75.7	31.7	49.0	11.0	8.3	80.7	582

Q.社会実証サイトで提供したように、NHKが利用者の興味・関心のあるコンテンツと異なる分野のコンテンツを提示することによって、利用者の視点を広げるために積極的に取り組んでいくことについて、評価しますか。

出所）社会実証調査（2023年2月実施）

全体評価

①災害マップ　評価まとめ

NHK

- **住んでいる地域で「過去に起きた災害」について追体験する災害マップを利用するとしたら、将来の「もしも」の時に、避難の気持ちが強まる（行動変容が生じる：91.6%（事前調査の避難率は13.2%））との高い評価を受けた。**
- **将来の災害時に、ネットサービスで、避難の“行動変容”を促せることが確認できた。**

避難に対する気持ちの変化	● これまで被害を受けたり危険を感じたりしたことのある人のうち、避難指示が出た際に避難を検討し実際に避難をしたことがあると回答した人は、**13.2%**だった。 ● 住んでいる地域で「過去に起きた災害」について追体験する災害マップのサービスを利用したら、**91.6%の人が、今後避難指示が出たときに、避難の気持ちが強まる**と回答。 ● このうち、災害時に避難すべきタイミングがわからないと回答した人、災害時に危機感を持ちにくいと回答した人では、**95. 2%～93. 5%**が、避難の気持ちが強まると回答した。
利用意向	● 「テレビを全く、あるいはほとんど見ない方々」の**88.5%**が、「災害マップ」に利用意向を示した。 ● 機能の中では、「NHK撮影映像や視聴者から投稿された映像（公開前にNHK側が確認）が撮影した場所と紐づけて地図上に表示され、災害状況を確認することができる」機能が、役に立つと回答した人が**76.9%**と最も高い評価だった。
確認したコメント	「NHKの豊富な映像資料が危険性を訴える際に視覚的にとても役に立つ」「地域の過去の災害に関する情報のアーカイブは全ての都道府県に放送局があるNHKでなければ不可能」「情報を集める情報網と実際に残っている映像の量は他の機関とはレベルが違う。持っている情報を今後の未来のために有益に使うことは社会的にも非常に意義がある」「改めて危機感を感じ、災害が起きたときのことを相談するきっかけになる」との回答を確認した。

②一望・連続再生　評価まとめ

一望・連続再生

NHK

- 放送の総合編成のように「NHKが選んだ主要ニュースや番組」を、総覧で提示したり、番組・ニュースリストや検索の内容に関連してなくてもあわせて提示。「自分が設定・選択したニュース・番組」の提示も利用できるようにした。
- その結果、日頃の習慣で、自分の興味・関心のあるコンテンツだけで満足する人などでも、そうでない人でも、「NHKが選んだ主要ニュースや番組」の提示に、思いがけないコンテンツなどに触れられたと広がりを実感：（50.0%～69.7%）　利用意向：（73.0%～85.5%）と、一定の評価がみられた。
- アテンションエコノミーに則らないで、興味が向かい使ってもらえる意向が確認でき、NHKならではのバランスの確立をできる見通しが確認できた。

日頃の情報取得の習慣：日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6分類にわけて検証

総覧視聴

総覧視聴A　NHKが選んだ主要ニュースと番組の提示

総覧視聴B　自分が設定した地域ニュースと興味のあるジャンルの番組の提示

コンテンツの広がり実感	日頃の情報取得の習慣の6つの分類いずれでも、総覧視聴Aが、総覧視聴Bより、「思いがけないコンテンツなどに触れた」と広がりを感じたと回答した人が多かった。 **総覧視聴A：56.0%～69.7%**　　**総覧視聴B：50.5%～63.0%**
利用意向	● 6つの分類いずれでも、「どちらも利用したい」と回答した人が最も多かった（**49.3%～52.9%**）。 ● これに、「総覧視聴Aを利用したい」と回答した人（23.5%から29.9%）をあわせると、6つの分類それぞれで、「総覧視聴A」をなんらか利用したいと回答した人が**73.0%～82.8%**。 ● **「NHKが選んだ主要ニュースと多様なジャンルの番組」の提示に、一定の利用意向**があることがわかった。
利用したい理由	総覧視聴Aを利用したい理由として、「提供元となる情報源のハッキリしたニュースや、様々なジャンルの番組が様々閲覧できたのが良かった」「自分の興味のない分野のドキュメントに触れ、長時間視聴することができた」「色々なニュースを見れた。自分では検索しないような内容もあり良かった」との声を確認できた。

②一望・連続再生　評価まとめ

一望・連続再生

NHK

番組・ニュースリスト（リスト）

検索

コンテンツの混ぜ方
NHKが選んだ、「主要ニュース（A）」「主要ニュースと番組（B）」、A+Bに加え、自分が設定した、「地域ニュース（C）」「地域ニュースと興味のあるジャンルの番組（D）」

”混ぜる“ ”混ぜない“
自分が選択・検索した内容の「ニュースや番組」を提示か、NHKが選んだ「主要ニュースや多様な番組」なども“混ぜて”提示かを選択

コンテンツの広がり実感（関連しないコンテンツを混ぜた場合）

- 日頃の情報取得の6つの分類のいずれでも、パターンBは、番組・ニュースリストでは52.0%～66.9%、検索では50.0%～59.0%の人が、広がりを実感したと回答。
- **NHKが選んだ主要ニュースと番組を混ぜることへの一定の評価が見られた。**
  （4つの分類で最多、他の2分類（「レコメンドの受容性が低い」「取得したい情報の範囲が広い」でも一定の評価）

情報取得の能動性	**受動的：（リスト65.1%　検索55.7%）**	**能動的：（リスト59.2%　検索55.7%）**
レコメンド受容性	**高い：（リスト66.9%　検索59.0%）**	**低い：（リスト52.0%　検索50.0%）**
取得したい情報の範囲	**狭い：（リスト64.1%　検索56.3%）**	**広い：（リスト58.7%　検索55.1%）**

利用意向（多角的視点に触れるスイッチ）

- 6つの分類いずれでも、“混ぜる”と“混ぜない”を「どちらも利用したい」と回答した人が、番組・ニュースリストでも検索でも最も多かった。（**リスト：53.7%～71.4%　検索：51.6%～68.1%）**
- これに、「常に混ぜて利用したい」という回答した人をあわせると、6つの分類それぞれで
  リスト：69.4%～91.3%　　検索：64.3%～89.6%
- いずれの分類でも、番組・ニュースリストや検索の内容とは直接関連しない、NHKが選んだ主要ニュースや番組などを混ぜる提示に利用意向があることがわかった。
- また、このうち、パターンBでは、**リスト：79.4%～84.8%　検索：76.1%～85.5%**と
  NHKが選んだ主要ニュースと番組を混ぜる提示に一定の利用意向がみられた。

②一望・連続再生　評価まとめ

NHK

混ぜて利用したい理由	● 検索では、「自分が意図していたよりも、同じ検索ワードでも幅広い範囲でニュースを見ることが出来てとてもよかった」「目につくと観てみようかなと思って視野がひろがって楽しかった。自分はこういうことに興味があるんだと気づけた」との声が確認できた。 ● 番組・ニュースリストでは、「普段見ない番組を知り新たな発見があった」「NHKの多くの番組に触れる機会になり興味の幅が広がった」との声が確認できた。

視点を広げる取り組み

評価	● 6つの分類のいずれも、NHKが一望・連続再生のように利用者の視点を広げるために積極的に取り組んでいくことについては、**パターンA・B・C・Dで、63.3%～86.8%**の人が評価をした。 ● このうち、パターンBでは、**72.5%～84.3%**の人が評価をし、**NHKが選んだ主要ニュースと番組を混ぜる提示でも一定の評価**がみられた。

（参考）”テレビ層”からの評価

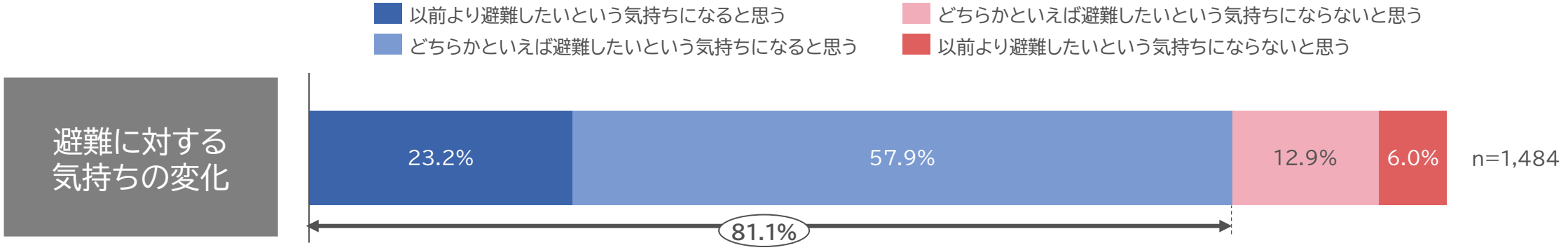
(参考)テレビ層からの評価

NHK

- 今回の社会実証の対象は「テレビを全く/ほとんど見ない方々」であるが、残りの「テレビを見る方々」(「テレビ層」)に、災害マップのサービスをNHKが提供することについてコンセプトを提示し確認を行った。
- 81.1%の人が今後避難指示が出たときに、避難の気持ちが強まる*と回答した。

*「避難したいという気持ちになる」+「どちらかといえば避難したいという気持ちになる」

テレビ層による「災害マップ」のサービスコンセプトへの評価



Q.「災害マップ」のように、今後、お住まいの地域についての「過去に起きた災害の情報」を利用することで、実際に災害が起きテレビなどを通じて避難指示が出た際に、これまでよりも避難したいという気持ちになると思いますか。

出所)NHK調査(2023年3月実施・ウェブ調査) 調査会社パネルからリクルートを行ったテレビ層1,484人が対象

(参考)テレビ層からの評価

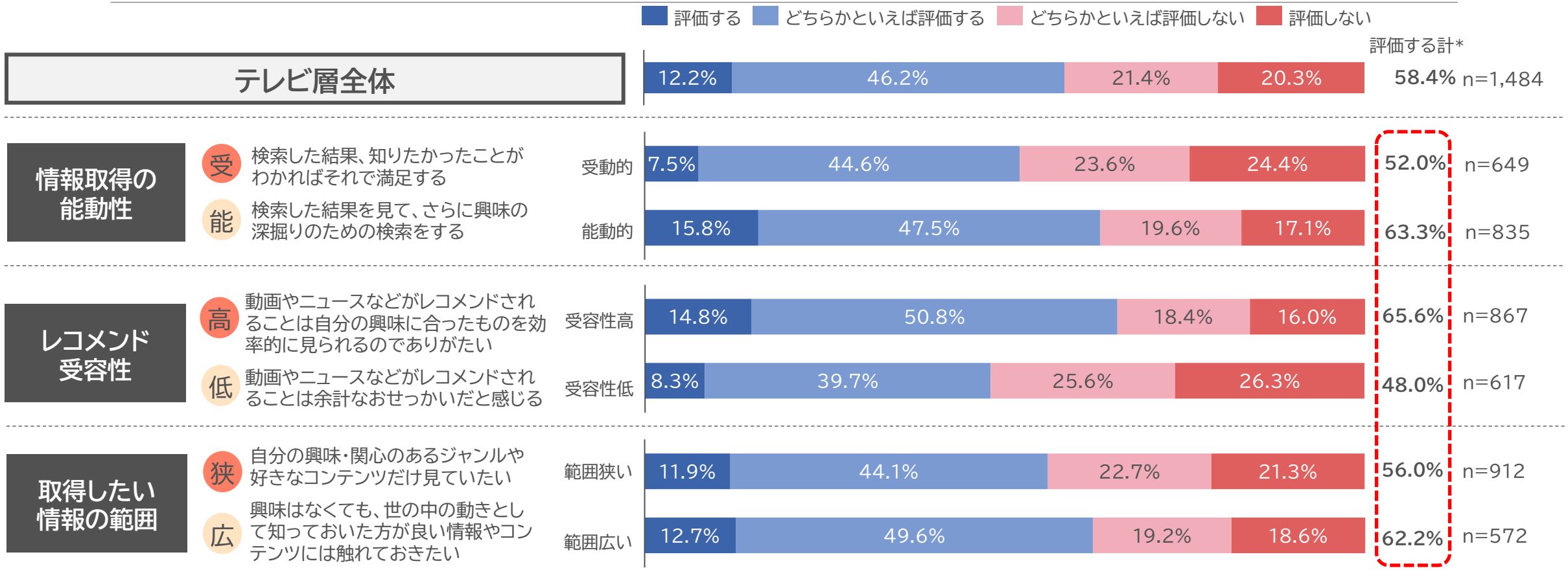
一望・連続再生

NHK

- 同様に、「テレビを見る方々」(「テレビ層」)に、NHKが一望・連続再生のように利用者の視点を広げるために積極的に取り組んでいくことについてコンセプトを提示したところ、全体では**約58.4%**が評価する*と回答。
- 日頃のニュースやコンテンツへのアクセスの習慣の6つの分類のいずれでも、**約5割から約6割の人**が評価すると回答した。

利用者の視点を広げるNHKの取り組みを評価するか

*「評価する」+「どちらかといえば評価する」



Q. NHKが利用者の興味・関心のあるコンテンツと異なる分野のコンテンツを提示することによって、利用者の視点を広げるために積極的に取り組んでいくことについて、評価しますか。

出所)NHK調査(2023年3月実施・ウェブ調査) 調査会社パネルからリクルートを行ったテレビ層1,484人が対象